

株式会社ヤマノホールディングス
(7571)

調査レポート

2024年3月29日発行

(ポイント)

- ヤマノホールディングスは、M&Aで事業領域を拡大する戦略を取り、呉服和装品・宝飾品専門店を展開する和装宝飾事業を中心に、美容室やネイルサロンを運営する美容事業、訪問販売・催事販売のDSM事業、学習塾を運営する教育事業、前払い式特定取引業やリユース事業などをおこなうその他の事業を展開する。
- 同社では、グループ全体で292の店舗・教室を展開する。
 - 美容事業：80店舗（美容室76店舗、ネイルサロン4店舗）
 - 和装宝飾事業：104店舗（和装用品専門店や宝飾専門店、レザー&ファー専門店等）
 - DSM事業：36拠点
 - 教育事業：67教室
 - その他の事業：5店舗（リユース）
- 2024年2月14日に発表した24/3期3Qの業績は減収減益。
- 売上高10,164百万円（前年同期比0.8%減）、営業損失28百万円（前年同期：営業利益184百万円）、経常損失19百万円（前年同期：経常利益176百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失33百万円（前年同期：四半期純利益56百万円）。
- セグメント別では、美容事業の売上高は1,470百万円（前年同期比2.0%減）、セグメント利益17百万円（前年同期比：40.0%減）。和装宝飾事業の売上高は7,046百万円（前年同期比2.5%減）、セグメント利益は19百万円（前年同期比86.5%減）。DSM事業の売上高は655百万円（前年同期比7.7%減）、セグメント損失は35百万円（前年同期：セグメント損失4百万円）。教育事業の売上高は759百万円（前年同期比15.2%増）、セグメント利益は60百万円（前年同期比201.0%増）。その他の事業の売上高は232百万円（前年同期比55.1%増）、セグメント損失は56百万円（前年同期：セグメント損失26百万円）。
- 2024年3月15日に通期予想を下方修正。
2024年3月期の通期予想は、売上高13,900百万円（修正前：14,100百万円、当初比1.4%減）、営業利益100百万円（修正前：240百万円、当初比58.3%減）、経常利益100百万円（修正前：230百万円、当初比56.5%減）、親会社株主に帰属する当期純利益0百万円（修正前：140百万円）。

(注目点)

・ セグメントの概況

- 美容事業：不採算店舗を閉鎖し前年同期比7店舗減となり減収。しかし、新業態としてネイルサロンを併設したポートタウン東店（2023年7月）、前期に業態変更した成増店については、売上・客数とも順調に伸長。セグメント利益は、採用や育成を強化した影響もあり減益となったものの、広告媒体の見直しを図った結果、広告費は3Q比較で△20.3%と大幅に改善。
- 和装宝飾事業：「きもの会」参加者数の合計（2023年12月末時点）は、前年同期比17%増と大幅に増加したものの、昨今の物価上昇による消費マインド低下の影響により客単価が減少したことに加えて、受注商品の引渡が進まなかったこと等もあり、売上高は減収。セグメント利益は、採用強化にともなう人件費や採用費が増加したこと等により減益となった。
- DSM事業は、事業所の統廃合や稼働販売員の大幅減少により減収・減益と依然厳しい状況が続いている。
- 教育事業は、前期に株式取得した東京ガイダンス株式会社の売上高が当上期を通して業績に寄与し、売上高増（前年同期比：15.2%増）を達成した。また、セグメント利益は、株式会社マンツーマンアカデミー、東京ガイダンス株式会社が順調に推移したことにより大幅に増加（前年同期比：201.0%増）。
- 2023年11月15日に「スクールIE」のFC加盟店事業を展開し、神奈川エリアを中心に学習塾を17教室運営する灯学舎社の株式取得を公表。マンツーマンアカデミーと東京ガイダンスの運営する教室数と合わせて首都圏67教室の運営となる。
- その他の事業は、OLD FLIPの短期出店やポップアップストアを積極的に展開したことにより、売上高は増加（前年同期比：55.1%増）。
- 「捨てないをもっと身近に」をコンセプトに、循環ファッションにより廃棄を出さないサステナブルな取り組みに賛同する企業と共同で、古着の回収やリメイク商品の販売を徐々に展開する。

(アナリストの視点)

コロナ禍からの回復も業績の不安な状態が続いている。主力事業の和装宝飾事業とDSM事業の両事業は会員の高齢化に新規会員の獲得で対応しているが、その効果には若手の採用、教育を含め時間がかかっている。これに代わる美容事業、教育事業、リユース事業も基盤強化の時期にあることも影響するとみられる。

今24/3期は業績の下方修正となったが、物価上昇による消費・購買意欲の減退の影響で和装宝飾事業、美容事業、DSM事業の収益の悪化、売上が好調な教育事業も灯学舎の買収コスト負担が影響する。各事業で諸施策を実施しており営業利益は黒字を維持するが、なかなか2億円の壁を越えられない状況が続いている。短期的には賃上げの好循環による購買意欲の回復、株価上昇による資産効果の発現に期待し、長期的には美容、教育、リユースの新3本柱の収益貢献と継続的なM&A戦略の成果を期待し持続的な収益拡大に向けての戦略的な計画を待ちたい。

留意事項

本資料は、情報提供のみを目的として各種のデータに基づき作成したもので、投資勧誘を目的としたものではありません。また、この資料に記載された情報の正確性および完全性を保証するものでもありません。この資料に記載された意見や予測は、資料作成時点の見通しであり、予告なしに変更することがあります。株価の変動や、発行会社の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込むことがありますので、投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなされるようお願いいたします。なお、CP&Xグループ及び、同関連会社の社員、役職員又はその家族はこの資料に掲載されている企業の証券を保有する可能性、取引する可能性があります。この資料の著作権はCP&Xグループに帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送、配布、配信等を行わないようお願いいたします。